

東海大学海洋学部博物館（海洋科学博物館・自然史博物館） の恐竜骨格等の解体と運搬

柴 正博

東海大学海洋学部博物館が2023年3月に閉館し、ピグミーシロナガスクジラや恐竜骨格などの大型の骨格標本の多くがふじのくに地球環境史ミュージアムに寄託されることになり、昨年末から今年の1月にかけてそれらが解体されて、ミュージアムの体育館に運ばれました。

海洋科学博物館2階のマリンサイエンスホールの中央に展示されていたピグミーシロナガスクジラの骨格標本（全長18 m）は11月下旬に解体され、ミュージアムの体育館に無事運ばれました。自然史博物館3階の恐竜ホールに展示されていた恐竜骨格のタルボサウルスとトリケラトプス、2階に展示されていたケナガマンモスは、12月4～5日の2日間に、その他の恐竜骨格は1月19日に解体され、他の骨格や化石標本とともに19～20日に寄託搬入され、ミュージアムの体育館に運ばれました。

骨格の解体や標本の運搬には、東海大学の職員やミュージアム職員、NPO会員、サポーターなど多くの方々の協力がありました。今後、これらの寄託標本の管理と展示などについてはミュージアムで検討されて、活用されると思われます。



トリケラトプスの解体作業